

科目区分	専門教育科目	授業科目名	スピーチコミュニケーション			科目コード	26L114	担当者	高柳 篤江			担当形態	単独
対象学科・コース	生活創造学科 地域未来創生コース	配当年次	1年次	開講学期	春学期	単位数	2	必修・選択の別	必修	免許・資格要件			
授業形態	講義	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	元テレビ長崎、フリーアナウンサー、話し方教室講師の勤務経験あり。これらの経験をもとに、人前で話すことによって自信をつけ、また人間関係をスムーズに築く能力を養うための指導を行う										

授業の主題	自分の考えを正確に伝え、相手の考えを理解することにより、社会生活や人間関係の支えとなるコミュニケーション能力を高める。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	スピーチ実技について毎回口頭でアドバイスをする。レポートは毎回評価する。
授業の方法	テーマに沿って「準備する」「話す」、他の学生の発表を「聞き」「評価し合う」。	アクティブ・ラーニングの実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	「スピーチコミュニケーション」の概要、自己紹介、第一印象の決め手	各授業で実践してみる。	第9回	聞く力をつける	日常の会話で実践してみる。	
第2回	好印象を得るには	普段の生活の中で、自分を客観的にみでみる。	第10回	スピーチの組み立て①	日常の会話で実践してみる。	
第3回	お辞儀、あいさつ	普段の生活の中で、周りを見でみる。	第11回	スピーチの組み立て②	単語を大事に、日常会話に生かしてみる。	
第4回	スピーチの組み立て 基本形①	自分がどのタイプか考えてみる。	第12回	集団討論	討論のポイントを復習する。	
第5回	スピーチの組み立て 基本形②	日常生活で試してみる。	第13回	とっさのスピーチ	どのような場面で生かせるか試してみる。	
第6回	わかりやすい伝え方 アサーティブ①	自分がどのタイプか考えてみる。改善点を探す。	第14回	プレゼンテーション 話法のまとめ	ポイントを自分のものにするよう練習する。	
第7回	わかりやすい伝え方 アサーティブ②	自分がどのタイプか考えてみる。実践してみる。	第15回	プレゼンテーション 実践	仕上げにむけ練習する。	
第8回	わかりやすい伝え方 アサーティブ③	自分の変化を探す。			事前・事後学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	授業中に適宜紙媒体で資料を配布する。	受講生へのメッセージ	「言葉」は気持ちを届けます。「声」は人柄を表します。人前でのスピーチに慣れてくると「話し方」が変わり、あなたの印象も変わります。練習を重ねて、自信ある伝え方を身につけましょう。
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点比率 (%)	評価方法の配点比率 (%)					学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S : 100~90%)	レベル4 (A : 89~80%)	レベル3 (B : 79~70%)	レベル2 (C : 69~60%)
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	尽心	① 学習意欲														
		② 規律性														
	知識・技能	③ 知識														
		④ 技能	30			10	10	10	話しの組み立て、語法を学び、スピーチできるようになる。	基礎的技能、応用力	授業内のスピーチ・評価する力、レポート	スピーチコミュニケーションに必要な知識を十分に有し、十分活用できる。	スピーチコミュニケーションに必要な知識を十分に有し、活用できる。	スピーチコミュニケーションに必要な知識を有し、活用できる。	スピーチコミュニケーションに必要な知識をある程度有し、活用できる。	スピーチコミュニケーションに必要な知識が不十分であり、活用できない。
	思考・判断	⑤ 情報活用能力														
		⑥ 課題解決力														
	表現	⑦ 言語活用能力	20			10	10		考えをまとめ、わかりやすく言語化できる。	話す力、聞く力	授業内のスピーチ、レポート	考えをしっかりとまとめ、わかりやすい言葉で表現できる。	考えをまとめ、わかりやすい言葉で表現できる。	考えをある程度まとめ、表現できる。	考えをある程度まとめられるが、わかりやすく表現できない。	考えをまとめられず、表現もわかりにくい。
		⑧ コミュニケーション力	50			20	20	10	相手の考えを理解し、尊重したうえで、自分の意見を伝えられる。	意思伝達力、プレゼンテーション力、対人調和力	授業内のスピーチ・評価する力、発言、グループ討論、レポート	相手の考えを十分理解、尊重し、自分の意見をしっかりと伝えられる。	相手の考えを理解、尊重し、自分の意見をしっかりと伝えられる。	相手の考えを理解、尊重し、自分の意見を伝える。	相手の考えを十分に理解、尊重できないが、自分の意見は伝えられる。	相手の考えを理解、尊重できず、自分の意見も伝えられない。
	実践	⑨ 主体性														
		⑩ 協働性														
合計			100			40	40	20								